

神奈川県横浜市（8月10日）

【人口】 3,680,267人 【面積】 434.98 km² 【一般会計総額】 1兆3,899億円

調査事項

「ナショナルアートパーク構想について」

・事業概要

横浜を代表する都市空間である「都心臨海部」を舞台として「歴史的建造物」や「港の風景」など、開港都市としての資源を生かしながら「文化芸術」に代表される「創造的な活動」の積極的な誘導により、「国際的な観光交流拠点」の形成や「創造的な産業」の集積を進める。まちの魅力を高め、都市の活性化・横浜経済の発展を図り、市民が豊かな都市文化を構築し享受する。世界に発信できる地域として重点的に整備を進める構想である。

・目標とする都市像

開港のシンボルとなるエリアを囲んで、ウォーターフロントの回遊、創造的活動への参加、国際観光交流、ビジネス等、活気に満ちた市民活動が展開

・取り組みの考え方

ナショナルプロジェクト

開港150周年（2009年）を契機に、国際競争力を強化、「横浜らしさ」を生み出す

横浜型の創造都市の形成

・文化芸術と産業、観光、まちづくりが連携

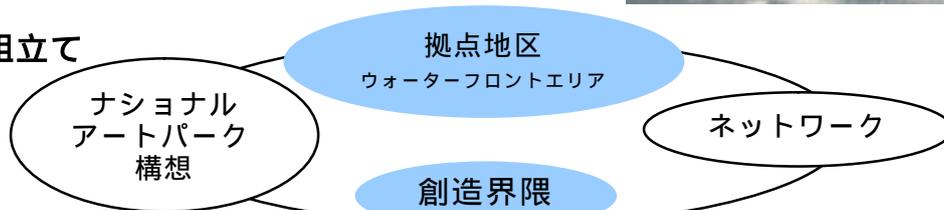
・新たな横浜ブランドの発信

推進スキーム

（仮称）クリエイティブシティ横浜を民間主体で設立



・構想の組立て



視察資料より



・推進組織 クリエイティブシティ横浜

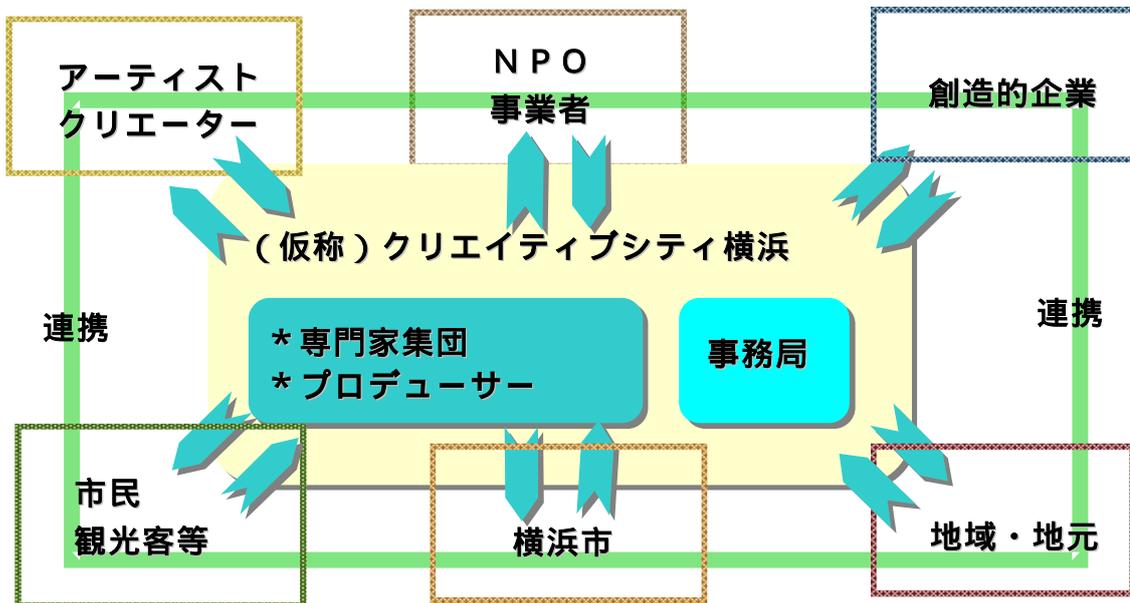
ナショナルアートパーク構想の推進のため、民間主体で設立

- ・適切な人材の結集
- ・推進のための権限を付与
- ・組織としての自立性の確保

推進機構の活動

創造都市形成に係る計画・事業の誘導
 創造的産業の集積誘致促進
 アーティスト等の活動支援

(仮称)クリエイティブシティ横浜の組織イメージ



視察資料より

・今後の展開

クリエイティブシティ・ヨコハマという全体構想をもとに、都市デザイン・都市空間の創造、ネットワークの形成が、文化芸術の発展につながり、更には、リノベーション（経済活性化）へとつながることを目指し、創造都市形成を拡充しようとしている。



・委員の感想

横浜港周辺全体が美しく楽しく整備されている。見ていて楽しいし、もう一度来てみたいと思わせる街となっている。現在、開港150周年に向けて「ナショナルアートパーク構想」創造性が都市を変える、という取り組みの中で、より魅力的なまちづくりが推進さ



れている。横浜港周辺全域でのまちづくりの中で、市の費用負担を抑えるために、国の土地を購入せずに都市（まち）づくりを展開している。しっかりとした発想（グランドデザイン）と、費用が必要。今回、3ヶ所の行政視察を行ったが、いずれも規模の大きい取り組みであったが、いずれも、その土地の利点を活かした事業であり、東広島市においても何が最大の利点（強み）なのか考え、それを活かしていく必要があると感じた。

人口367万人の大都市のナショナルアートパーク構想の具体的な取り組みは6の拠点地区の計画から形成されているが、予算、規模などが大きすぎて、今の東広島市では参考にならない。

歴史的な観光資源のある港町の中で、さらなる地域活性化を図る構想であるが、新しい産業の育成などが、どの程度実現できるか長い眼で見てゆく必要があり、中途修正の必要も出てくると思う。スケールの大きい構想のためか、机上イメージのみが先走りしているように感じた。

ナショナルアートパーク構想とは、横浜の都心臨海部を今以上市民の親しまれる場とするとともに、開港都市としての歴史や文化等の資源を生かしながら、文化、芸術活動の積極的な誘導により新しい産業の育成の発展を図るという概念を基に、2年間にわたりナショナルアートパーク構想推進委員会で検討され平成18年1月に提言書が発表され、翌19年3月に官民協働による協議会設立に向け調整を進め、平成19年7月23日に創造都市横浜推進協議会の設立に至った。横浜ポートサイド地区から元町方面に5地区に分けこの構想でネットワーク形成しようとするプロジェクトである。



歴史感を残し、水辺の環境を活かした空間が形成されていた。官民が一体となって創造都市作りを行っている。東京に次ぐ人口367万人の都市は市民の創造性が発揮出来やすい仕組みを作っており、地域の人々とともに活動する事によって新しい視点から課題解決の道を模索している。地域造りについては、本市の住民自治協議会設立に向けて、地域の声を活かすことについて参考になると思う。